

令和2年度第2回公立大学法人長野県立大学評価委員会

日 時：令和2年7月30日（木）
午前10時35分～12時40分
場 所：長野県庁3階 特別会議室

1 開 会

○山沢委員長

それでは、評価委員会に入らせていただきます。

2 協議事項

公立大学法人長野県立大学の令和元年度（2019年度）実務実績の評価について

○山沢委員長

本日の議事に入らせていただきます。

7月20日に第1回を開きまして、本日は第2回でございます。前回、予定時間を過ぎてしまいましたが、熱心な御議論をいただきまして、本当にありがとうございます。

前回は、小項目番号41まで行いました。保留も5項目ほどございました。まずは、一回先に進ませていただきます。

資料7を御覧ください。22ページの下、右端の小項目番号の41が保留でございます。本日は、23ページの42からお話をしていきたいと思っております。前回と同じようにここに各委員の評価がございまして、評価（案）ということで、一応委員長案に近い形で案を出しております。大体、委員の評価が全部そろっているようなところはそのままではよろしいのではないかと考えておりますので、そんなイメージで進ませていただきます。

まず42、R-capの適性検査の話でございます。全員aでございますので、評価もaでよろしゅうございますね。

次は43、全員aでございますので、評価としてはaでございます。よろしゅうございますね。

次は44、これもR-capですが、全員aということで、a。この辺はずっとコメントがないのですが、よろしいかなというところで。

次は45、学生の視野を広げ、進路の選択肢を広げるためのキャリア・就職支援です。これはaということで、評価もaでよろしゅうございますね。

次は46、各学科に分かれます。食健康学科の2年次の臨地実習でございます。これは、私だけsにしていますが、aで結構でございます。aでよろしゅうございますね。

次は47、これも全員aでございますので、aということで行きたいと思っております。

次は48、学生の多様性を踏まえ、就職支援へとスムーズにつながるようなキャリア形成支援を実施するということです。私はbで、そこに理由を書いたのですが、多くの方がaでございますので、私はaでも構いません。学生のほうがもっと真剣に考えてもらわない

と困るのではないかと、スピードの問題を言いましたが、aでよろしゅうございますね。次は49、これは皆さんaですが、私はsです。これはフィンランドに海外研修に関する項目です。普通、大学の海外研修、海外プログラムは、大学を訪問したりして非常に楽しく過ごせるものが多いのですが、これは違うのです。こども学科は、フィンランドで幼児教育の現場を実習しているのです。これは珍しく、重要ではないかと思っています。

私もヘルシンキに1週間くらいいたことがあるのですが、フィンランドは広くて家はばらばらにありますから、学校が広がってしまっているわけです。いわんや子供たちがどう育っているかは、非常に日本と違う状況なわけです。ワッと集まって幼児教育をしているのではないところです。そういう意味で、そこを見てきたというのは、日本の少子化等々のこれからのことを考えると、学生にとっては大きなプラスになったのではないかということで、私としては、是非評価したいと思いますが、いかがでしょうか。

○●●委員

よろしいでしょうか。

○山沢委員長

●●委員、どうぞ。

○●●委員

ありがとうございます。

大学に伺いましたときに、廊下に大きな模造紙があって、それぞれのフィンランドの体験や海外研修の体験を学生に紙にまとめさせて発表していらっしゃいました。ポスター発表のような形になっておりました。

拝見している中で、確かに委員長がおっしゃるように、幼稚園での実習、森で遊ぶとか、森にあるものを使った教育の仕方を体験したというフィールドワークもあれば、ちょっと失礼ですが、観光的なものもありました。

そういう意味で言うと、まずは目的は達成されたと。さらには山沢委員長がおっしゃってくださっているような幼稚園、こども教育ということについて、やはり質的な貴重な体験として学生の受け止めはうまくできているなところから言えば、まずはしっかり体験できたというところでの評価でaと、学生の発表を見て思いました。

○山沢委員長

ありがとうございます。

では、私の意見を取り下げてaで結構でございます。では、aということでよろしくお願ひします。

次は50、見ていただきますと、●●委員の御意見をまだいただいていないところです。その点、●●委員はどうお考えでしょうか。

○●●委員

大学からの回答が私に送られてきたのですが、資料8の3ページに書いてあります。

ここでは学長の裁量のことを言っていますが、私はそれ以外の研究テーマの洗い出しと優先順位と、そのプロセスを教えてくださいと。学長裁量以外のものはどうやっているのですかと聞いているのですが、全然お答えになっていないので、まだ保留です。

○山沢委員長

そうですか。

●●委員はsでございますが。

○●●委員

これは私のミスでaです。すみません。

○山沢委員長

分かりました。

私はbですが、昨年からは減少しているのですね。研究は一度研究費を申請すると、どうしても減少傾向になるのでbにしたのですが、もし●●委員がaでいいということであれば、私もaに変えたいと思いますがいかがですか。

○●●委員

一般的な話ですが、学長裁量以外のものというものはあるのですか。

○山沢委員長

共同研究で、例えば民間と共同研究をすとか、国から科学研究費で研究をするということですね。

○●●委員

法人としてそのプロセスがあるわけですね。その学長裁量だけがここでクローズアップされているのは、何か特別やっているのでしょうか。

○山沢委員長

学長裁量経費ですと、大学の事情が分かっていますから、この辺の研究を本学としては伸ばしたいということがあったときに、そういうことをしている研究に直接支援できるということです。一応学長の研究戦略を評価する道具になります。

○●●委員

わかりました。

私はここで、学長裁量のテーマ決定以外にちゃんとルールが決められて行われているのであれば、aで構わないと思います。

○●●委員

これは私も、aについては多少疑義があります。多分、大学のレッテルになっていくようなことをきちんと考えているかどうか、あの大学はこれが強いですよと評価で言われるわけです。そういうことをちゃんと考えているかどうかについて、どうも出てきたのをただやっているのではないかと思います。そこがちょっと気にはなりました。

○山沢委員長

戦略性がないんですね。感じられないんですね。

○●●委員

それは評議員会で審議するんですか、どこで審議するんですか。

○山沢委員長

これは学長裁量経費ですから、学長が。

○●●委員

それ以外のものです。研究費は、それ以外のほうが少ないんですか。

○山沢委員長

研究費は、黙っていても（教員一人あたりの年間）割当が幾らかあるんです。

○●●委員

研究費の配分は、総額で幾らなんですか。学長はそのうち幾らなんですか。その意思決定のプロセスがちゃんと決まっているのなら、私はいいと思います。

○山沢委員長

県立大学は文系ですから、食健康学科のほうは少し必要かもしれませんが、理系学部と比べたら少ないのではないかと思います。おっしゃっているとおり、戦略性がとても必要なのです。

○●●委員

それは学長裁量で戦略性を持って決めているのですか。それ以外は、法人として決めているのですよね。

○山沢委員長

でも、助けることが戦略ではなくて、こういう方向。

○山浦委員

これをやるには、教員の採用をどうするか、どういうプロを連れてくるかと、そういうことと関係があるわけです、学生だけじゃなくて。逆に言うと、教員の粒がそろっていれ

ば、そこへ学生が寄ってくるとかそういうこともあるのです。

○●●委員

私の質問に対して、法人にはもっと信頼関係を持ってコミュニケーションを図りましようと言っているんですが、出てきてくれないというか。

○山沢委員長

向こうもコミュニケーションを図りたいと思っています。

いかがでしょうか。aということによろしゅうございますね。ありがとうございます。

次は51、全員aということでございますので、コメントはございませんが、aとさせていただきます。

次は52、●●委員がsでございますが。

○●●委員

これはaに修正でお願いいたします。

○山沢委員長

では、aということで、評価はaでございます。

ただ私、これはaですが、参考意見で●●委員が、例えばどんなことをしていたのかと、大学の戦略を問うようなことをおっしゃっているわけですが、共同研究というのは戦略がないと駄目なのですね。ただ相手がやってくれるからではなくて、本当にそういうことをここでは書きたいなと思います。

申し訳ありません。戦略はあるそうです。これは資料8を御覧ください。後ろから2枚目から、共同研究の研究者と相手先、テーマも書いてあります。こういうことをおやりになっているそうです。今のところは教員に任せた感じですね。それは任せないと駄目なんですけど、こういうことでございます。ここに大学として戦略が乗ってくるといいなということだと思います。

そういうことで、これはちゃんと回答もございまして、aということで評価させていただきます。

次は53です。私がbですが、やはり論文の投稿件数が減っているというのは問題だと思います。62から40に減っているんですね。62が多かったのかとも思いますが、そういうことで、私はbとさせていただきます。皆さんに合わせてaでも構いません。

○●●委員

私のコメントは、このように随所に出てくるのですが、比較する材料がないのです。法人として目標を決めて、それを達成したのか達成していないのか。要するに、中期計画とかでは指標を定めていますが、年度計画もそれ以外を超えていないのですね。

普通、会社運営でも、努力目標としてこういう数値が出ていれば、来年度はどうするかと、目標に対してどうだったという評価もあるわけですけども、この論文数とか著作数とかが妥当なのかどうかという判断資料がないので、法人としての目標を定めて、次回か

らはやってほしいと、こういう期待をしたいと思います。

○山沢委員長

そういうようなことを、参考意見書に書きたいのですね。
これは、私はaということにして、53はaでございます。
次は54でございます。生駒委員、これは。

○生駒委員

前からシンクタンク機能ということを書いていて、県立大学で公共経営コースでしたか、そういうことで将来行政に携わる人を育てるわけなので、県がどのようなことで意思決定しているのか、各学部で必要とする書類というのは違ってくるので、前回の提案ではそういうことを言っていると思うんですけども、ここでは何冊集めたというだけなので、「公共経営コースにおいて県に関する資料などの収集と活用に努められたい」という意見をつけております。

○山沢委員長

右端に、山浦委員の156冊が多いのか少ないのかということに対する法人の回答があります。こういう分野というのを書いてきているのですが、一般的な話で、シンクタンク機能になるかなとは思っているのですが、ないよりはいいのかという気もします。

生駒委員、aでよろしゅうございますか。

○生駒委員

この議論は、昨年度の委員会では他の委員の方が先ず発議をされて、この大学に来れば県のことは一番よく分かるんだという収集をしてほしいと思うんですね。

○山沢委員長

まだ2年目ですからね。

○生駒委員

いや、方針があるのかということです。どういうことを収集しようとしているのかを、各学部でお決めになってくださいと言っているんです。

資料収集については、的を絞るしかないでしょうね。

○山浦委員

目標としてはもう少し柔らかいような。

○山沢委員長

ただ、大学人として言わせていただければ、教員の中に長野県政について研究する人が出てくるとこういう資料も集まってくるということで、どうしても時間はかかるのかなということなんですね。

○生駒委員

そういう教員がいないこと自体が問題ですね。

○山沢委員長

aといたします。

次は55、これは全員aということで、aとさせていただきます。

次はページが移りまして56番、●●委員を除いて全員cですが、●●委員はbですが、cでもよろしゅうございますか。

○●●委員

全国平均を下回っていますからね。ですから、こういう指標を出してほしいと言っているんですけども。

○山沢委員長

では、cでよろしゅうございますね。cでございます。

次は57、●●委員がbですが、結果がどうなったか分からないのと、2件が適当かどうか。ソーシャル・イノベーション創出センターへの相談が2件あったと言っていますが、確かにその2件がどうだということですが。

○●●委員

それだけのことです。

○山沢委員長

そういうことを指摘して、aでいかがでしょうか。

○●●委員

いいです。

○山沢委員長

ありがとうございます。では、aとさせていただきます。

次は58、これは全員sということで、sとさせていただきます。

次は59、私だけsではないのですが、sとさせていただきます。

次は60、これは全員aでございますので、aとさせていただきます。

次は61、これも全員aですので、aとさせていただきます。

次は62、寮です。この後もずっと出てきますが、私は寮の活動には甘いのでsですが、皆さんがaということであれば、私はaで構いません。aにさせていただきます。

次は63、●●委員がaでございます。御意見をお聞かせいただけますでしょうか。

○●●委員

実際にsまでの活動なのかというところです。結構ほかとかぶらせて進捗状況については御報告をいただいているところなのですが、実際学生そのものの参加が非常に少なく、連携というところでも、具体的に数とかを見ていったときに、sとつけていほどの取組であるかという、計画どおりなのではないかと感じております。

○山沢委員長

今おっしゃったように、学生の参加はほとんどないですね。何人かの教員と職員でぼつちり計画を立てて、駐在員みたいな、地域コーディネーターを置いて進めているものです。

それはそれで、今まで高等教育機関と縁のなかった市町村から見ると、こういう方々が比較的気軽に相談ができる窓口を県立大学につくったのは、非常に大きな成果というイメージで私はsにしているわけでございます。

●●委員、ここはsでもいいですか。

○●●委員

私はaのまま、全体はsで構いません。

○山沢委員長

では、これは評価としてはsとさせていただきます。

次は64、全員aということでございますので、aとさせていただきます。

次は65、全員aということで、結構だと思います。

それから66、これもaでございます。これは全くコメントがないのですが、aということでございます。

次が67、sとaが混在しております。私がsにしなかったのは、海外からの学生の受入れと留学の準備というところです。もう少し留学なら留学で的を絞ったような形の話がいろいろ出ていいのではないかと。今何となく仲良くしてくれる大学と連携を結んでいこうと、もちろん最初はそこから始まるのですけれども、まだsではないのではないかとイメージでaとさせていただきます。

ただ、多くの方がsということでございますので、変えてもいいと思っています。

●●委員、お願いします。

○●●委員

私はコメントをつけていないのですが、私は大学の評価を尊重していますので、要するに、自分では判断ができないものはそのままにしています。

○山沢委員長

●●委員さんがおっしゃっていることは非常に大切なことで、実質化ですね。これをきちんとコメントに入れた形で、sでもコメントをつけるということで賛成いたします。よ

ろしゅうございますね。コメントつきでsです。

次は68、皆さんaですが、●●委員が、「法人として自主的に年度計画に定量的な努力目標を設定することが望まれる」ということで、まだ評価をいただけていないのですが、これは留学生をどのぐらいの目標としているのかということでしょうか。

○●●委員

今4人でしたか。

○内山課長補佐

今の件は、大学のグローバルセンターに確認いたしまして、私費留学生全体で志願者2名という状況ですが、現状では、日本大学連合学力試験（以下「JPUE」という）、日本留学試験（以下「EJU」という）、いずれもその具体的な人数、目標というのは設定できていないということでした。

○山沢委員長

JPUEをねらって、これだけ取ろうという人数の設定値はなかなか挙げづらいところがあるのでしょうか。今のところは出てきた希望者に一生懸命対応しているというところがございます。よろしゅうございますね。aという評価とさせていただきます。

次は69、全員aということでございますので、aとさせていただきます。

次は70、同じようなのが続くのですが、70も全員aでございますので、aとさせていただきます。

次は71、理事長と学長との組織の問題、これは●●委員、71、72ともつけていないのですが、御意見をお願いします。

○●●委員

質問をしていなかったもので、これはaでいいです。

○山沢委員長

では、両方ともaでよろしゅうございますね。それでは、71、72とも全員aということでございますので、aと評価させていただきます。

次は73、コメントはございませんが、全員aということで、aとさせていただきます。

次は74、監事の話です。aということでございますが、私と●●委員が意見を言っております。私としては、監事が理事会で年に4回程度だけということで、最近の国立大学法人には監事が2人いまして、1人は常勤、もう一人は非常勤ですが、全部の会議、役員会、理事会、教育研究評議会まできちんと出ております。もちろん陪席で聞いているだけということもあるわけですが、それでない業務運営の監査までなかなかやりにくいのではないかと思います。そんなことも含めて、コメントはつけるけれどもaとさせていただきます。

●●委員は。

○●●委員

ここは回答をいただいて、内部統制は整備されたと。モニタリングにこれから入っていくということですが、監事の役割は、業務方法書など業務監査まで含めたお仕事になっていて、監査報告書もそのようになっています。

これが十分行われたかどうかを検証するためには、監事が計画と報告書を見た、要するに業務監査なり業務方法書に従ったことをどのように検証したのか、そういう資料を基に判断したいんですね。要するにそこまで、会計監査以外の業務監査までの責任を負った監事が、委員会に出席しただけでaという、単純にそこだけでいいのかということですよ。

そして、それをサポートする内部監査なり内部統制の人たちの連携、それも伺いたいのですが、内部監査規程は適正な会計処理を期することを目的とするということで、業務監査が入っていないんですね。これでは、監事と連携もできないんです。モニタリングもできないんです。そのことはコメントとして言いたいですね。

年4回分の報酬しかもらっていないし、日数も十分見てもらっていないので、できるわけがないというのを私は分かっているんで、そういう体制をつくってほしいというのは、山沢委員長のおっしゃることで、それに対しての金銭的な予算措置も必要ですね、ちゃんとやるには、それは県にお願いするしかないんです。

内部監査規程は直してもらわなければいけないのと、監事との連携とモニタリング、要は誰がやるんだと、内部監査室がやるんじゃないのかといったところを、その他事項、あるいはこれに関連してでもいいですが、意見、コメントは付すつもりです。

○山沢委員長

これも、参考意見書としてきちんと記載したいと思っています。やっぱりこれでは遅れています。ほかの国立大学法人・公立大学法人の例を見て、こうなっていますよというのを指摘して、今おっしゃったような具体的な対応をすべきでないかということまで参考意見書として言ってもいいのではないかと思います。

○山浦委員

県は、監査法人はついていますね。

○生駒委員

もちろんです。ただ、法人は規模が会計監査法人うい義務付ける基準に達していないので。しかし僅差です。その分、監事の果たす役割と期待は大きい。監事は会計監査と業務監査の他、今次の地方自治法の一部改正で内部統制も守備範囲とされています。

○山沢委員長

そうなんです、ないんです。

○山浦委員

県はついているんですよ。

○山沢委員長

もちろんついているんです。
ということも含めて、aでよろしゅうございますね。

○●●委員

自己点検委員会が、監事が理事会に出席したことだけしか問題にしていないというのは、評価の視点がずれているんじゃないかと私は言いたいです。

○山沢委員長

では、aということでありありがとうございます。

次は75、監事監査報告書です。皆さんaでございますので、aということで。多分74、75でまとめた形で、参考意見書になると思います。

次は76、皆さんaということで、評価はaになります。●●委員、これはちょっとお願いします。

○●●委員

これも、どういう判断資料を提示していただけるかという話です。FDとSDの話で、少人数でやっている、相互で授業を参観していますけれども、それ以外に広げて、FDの一環として授業の相互参画を広げるのは必要だと思うし、例えば、事務局の学生サポート満足度や年次休暇取得率とか、ハラスメント発生件数ゼロとか、そういう目標値を置いてくださいということを申し上げています。

○山沢委員長

この辺も、参考意見書という形も取りたいと思います。ありがとうございます。

次は77、全員評価がbで、法人もbですから、bとしたいと思います。ここで、一番右端に●●委員コメントということで、非常にきちんとしたことが書かれています。これは、コメントとしてここに書くこともいいし、さらに資料を足して、参考意見書にも書いてもいいのではないかと思います。そのぐらいの価値のあることだと思います。

評価はbということでよろしゅうございますね。

○●●委員

これは初年度から四年制大学の設備と人員配置で、それを試算すると6億円ぐらいの金額になっているんですね、私が前に皆さんにお示した金額で。その6億円の説明責任は大学としてどうするのかと。

それは、後に出てくる財務報告なりにも関係するのですが、信州大学も東京大学も他の大学も、財務報告は財務諸表を公開するだけではなくて、本学はこういう状態にありますという説明をちゃんとされているんですね。財務諸表を公表すれば理解が得られるのかというと、そういう問題じゃないだろうと。もっと父兄にも説明する責任を果たしてほしいということで、その中の一環として、その大きなテーマが設立初年度からあるんですけれども、山沢委員長のような取扱いで、何かまとめたいと思っています。

○山沢委員長

そうですね。これは今年の法人ヒアリングでも申し上げたのですが、教員の評価をつくったので今年試用してみると、学長がおっしゃっていましたので、そこに期待をしたいと思います。

コメントもしっかりつけて、bで行きたいと思います。

次は78、これは全員aということでございますので、aとさせていただきます。

次の79も同じくaということでございます。ここで、●●委員がカウンセラーによる対応の重要性を指摘されています。この辺、●●委員、特に強調していただけるようなことがあれば、aであってもコメントのところに入れたいと思いますが、よろしゅうございますね。ありがとうございます。

次は80、aでございますが、●●委員が御質問されて、その回答がまだということで評価をいただいていないということでございます。

○●●委員

この回答は81ですね。

○山沢委員長

81もお答えをいただけていないです。

○●●委員

80はaで結構です。

○山沢委員長

では、80はaとさせていただきます。

81は、教職員のコスト意識の向上に努めるとともにと書いてありますが、財務制度等に係る研修を2回やったからどうだという話でございます。

●●委員、●●委員から評価をいただけていないのですが、●●委員はいかがでございますでしょうか。

○●●委員

今おっしゃってくださいましたように、実際研究に係るコストの意識向上とあって、内容や対象者について分からないので、効果があったかが分かりません。意識の向上と事務処理方法を工夫し、経費の削減を目指しと書いてありますが、実際にどのくらい何が削減されたのかという具体的な対象が分かりませんので評価ができなかったんですが。

○山沢委員長

そうなのですね。出席人数しか書いていないですからね。

●●委員、御意見をお願いします。財務制度等に係る研修を2回行ったと。これは単なる物品請求とか事務処理の効率化とシステムに慣れる研修だったような感じですが。そのようにしか読めないのですが。

○●●委員

経費削減を目指しているのですが、事務処理の負担軽減を図って、どうそれが経費削減になったのか、そういう目標もないし。

○山沢委員長

開学して2年目の最初ですから、その辺は不慣れな人もいるからちゃんとさせようという研修なんですかね。

それよりも、教職員のコスト意識をどう高めるかが大切なのですからけれども、そういうような計画にはまだなっていないですね。

●●委員、●●委員、aでいかがでございましょうか。コメントはつけます。

○●●委員

私のほうはbで、全体評価はaで結構です。

○山沢委員長

分かりました。●●委員はb評価とさせていただきます。全体としてはaとさせていただきます。

○●●委員

aと評価すると法人の回答はないですね、個別の委員がbでも。

○山沢委員長

大学の自浄機能に期待したいと思います。

次は82、全員aなので、aでございませう。

●●委員、●●委員が追加質問で、長野市の出資金の管理運用は具体的にどうなっているんだということですが、法人の回答はそこに書いてありますように、運転資金の余剰金と併せて、譲渡性預金により1か月程度の短期間の運用を反復して行っているそうでございます。これはよく大学がやる例でございます。

そういうことで、aでよろしゅうございませうか。

●●委員、いいですか。

○●●委員

いいです。

○山沢委員長

では、aとさせていただきます。

○●●委員

委員長、81は私はb評価そのままです。

○山沢委員長

そのままですね。全体としてaでよろしゅうございますね。

○●●委員

●●委員はaに直されたんですか。

○山沢委員長

●●委員はbと言っていますが。

○●●委員

bのままですか。●●委員がbとおっしゃっていますね。

○山沢委員長

いいえ、81は、山沢がa、●●委員がb、●●委員がb、●●委員がa。

○●●委員

80はどうでしたか。

○山沢委員長

80は全部aですね。

次は83です。●●委員がbをお付けになっています。法人の回答はそこに書いてございます。

●●委員の追加質問は、評価委員会の評価結果への取組状況で、現在課題となっている点、取組状況を実際に行い、課題となっている点や今後の展開に期待する点への取組を伺いたいということです。

法人としては、2018年度がbで、2019年度がc、科研費申請率の向上、未申請者に申請を促す仕組みが必要と認識しており、記述の学長裁量経費も含め、トータルで検討してまいります。2018年度b評価で2019年度もb評価が2項目ある。それからGPAの分布の検証と課題の整理及びその活用について実施していくことについては、GPA制度による成績評価を積極的に授業内容・方法の改善につなげることが課題と認識していると。

教員の業績評価の導入については、処遇にどのように反映させるかが、今年度試行後の課題と認識していると。今年2020年度に試行するんですが、その課題としては処遇をどうするかということだと思います。

●●委員、bでございますが、全体としてはa評価でよろしゅうございますね。ありがとうございます。では、aとさせていただきます。

次は84、ホームページですが、これはずっと続いているんですか。

○内山課長補佐

そこは先ほどの(83の)回答になりますので、そこは関係がないです。

○山沢委員長

関係ないんですね。

全員aということで、aでよろしゅうございますね。

次は85、これも全員aということでございます。よろしゅうございますね。

86、これもaでございます。

87はaですが、●●委員から追加の質問がありまして、ICT環境、学生の満足度について調査結果などあるかということで、昨年度、その前の年もやっていない、学生の満足度調査をすべきであるという。

○村上課長

まだやっていないです。

○山沢委員長

これはちゃんとやるようにというコメントをつけて、aということにしたいと思いますが、よろしゅうございますね。では、そういうコメントでaと。

次は88、メディアプラザについてです。これも学生のアンケートがないので、大学がいいと言っているだけだということで私はbにしたのですが、皆さんがaであれば、私はaで構いません。よろしゅうございますね。aとさせていただきます。

次は89、コメントはございませんけれども、全員aでございますので、aとさせていただきます。

次は90、私はsですが、学生と教職員の危機管理を一緒になってやったということで評価したいと思ったのですが、そのレベルであればaだろうということで、皆さんaだと思えますので、aとさせていただきます。aでよろしゅうございますね。

次は91、教職員の健康診断です。●●委員がbと評価されています。●●委員、徹底していただきたいというところでコメントにも書きたいと思えますので、お考えをお聞かせください。

○●●委員

ありがとうございます。

受診率が83.2%ということで、学生の受診率も100%に行っていなかったもので、教職員そのものの健康管理に対する意識づけというのは高い大学なので、やはり徹底していただきたいというところはございます。それが危機管理全体につながっていくかと思えますし、体だけではなくてメンタルヘルス上のベースになる情報だと思えますので、そういう意味ではハラスメント等にもつながることでもあると思えますので、ここは徹底していただきたいと思ひましてbの評価にさせていただきました。

○山沢委員長

もちろん今のお話をコメントにちゃんとつけた形で、aということでよろしゅうござい

ますか。

○●●委員

はい。

○山沢委員長

では、評価はaとさせていただきます。今おっしゃったように、私自身もこれは100%を目指す、100%で当たり前だと思っていたんですが、125人中122人ということで、3人受けていないというのですが、この3人がどういう方なのか。その前の年も受けたのかということもありますし、きちんと100%実施するようにしていただきたい。保健センターみたいなものがあるんですね。

○内山課長補佐

ございます。健康管理室に保健師が1名おります。

○山沢委員長

そこできちんと管理していただきたいということを、コメントとして付け加えたいと思います。

なお、法人評価のところで受診率が83.2%というのは間違いで、右側のほうにありますように、97.6%ということになります。直してください。

○●●委員

一つだけ質問よろしいですか。

ちょっと分からないのは、産業医ですとか、安全衛生委員会ですとか、そういったストレスチェックというのは、実際に設置、または行われているのでしょうか。

○内山課長補佐

安全衛生委員会で、ストレスチェックというのは、やっていると思います。

○山沢委員長

ちゃんとあって動いているとは思いますが、確認させていただきます。

○●●委員

労働安全衛生法上の「心とからだの健康づくり」の計画があって健康診断の受診につながるのですが、その辺りが見えないのでよろしく願いいたします。そこがなければ、やはりaにもできないと思います。

○山沢委員長

なるほど。やっていると思うのですが。根拠なくやっているわけではないので、確認いた

します。ありがとうございます。

○●●委員

申し訳ございません。ありがとうございます。

○山沢委員長

次は92、皆さんaでございますので、aということでよろしゅうございますね。

次は93、象山寮のセキュリティ対策、管理人ということで、皆さんaでございますので、私もaで結構です。aで行きます。

ただ言いたかったのは、あそこは寮から裏道を歩いて大学に行かれるんですが、あの道は細く車の通りが結構多くて危ないので、ちゃんと学生に指導をしているのか心配だということです。新入生ですから、最初にどういう指導をしているのかなと思ったら、一般的な交通事故に注意するようなことぐらいなことなので、本当にちゃんとやってほしいと思ってbとただけです。aで結構です。

次は94、リスク管理ということです。両キャンパスで防災訓練を実施するという事です。私を除いてaでございます。私が何でsにしたかと言うと、学生も防災訓練に出ているのではないかと思うのですが、寮生にもぜひ地域の防災訓練、できたら自衛消防団に入ってもらおうと、年を取った街で若い人が今少ないですからいいんじゃないかということですが、残念ながら学生は入っていないということなので。

ただ、大学本体のほうでは、三輪キャンパスの女子学生2人が消防団の広報活動に関わっているということで、非常にいいかなということでsにしたわけですが、aということで結構です。

次は95、皆さんaということですので、aとさせていただきます。

96、皆さんaということでございますので、aと評価させていただきます。

次は97、aでございますが、●●委員のコメントが非常にいいということで、ぜひ一回御説明いただいて、法人の回答も来ていますので。

○●●委員

私が保留にしたのは、研究費についての不正の取扱いについてであって、全般的な内部通報制度があるのを知りませんでしたので、それは回答にいただいたとおりでと思います。

もう一点、そのほかに、この公益通報というのは不正を扱うものですが、大学のこういうところがもっと良くなれないかなとか、誰に言ったらいいんだろうといったときに、それは目安箱かもしれませんけれども、学長なり理事長にメールが行くという仕組みはできないものだろうか。教員にしろ、職員にしろ、学生にしろ、大学がもっとこうならないかなというのをどうやって吸い上げるんだろうと。それはアンケートではカバーしきれていない点があるのではないかということで、ここではそれに触れたいと思うのですがいかがでしょうか。

○山沢委員長

これは、ぜひほかの大学のホームページ等も見て、ホームページで窓口を明確にすると

いうのは普通なんでしょうけれども、ほかの公立大学等の例も調べていただいて、国公立大学でやっているような例がありましたら、ぜひ、委員会としてもそのようにことを進めたいというようなコメントをつけたいと思います。よろしくお願ひします。

次は98、評価はaでいいか思います。ただ、●●委員から、69名の参加が多いのか少ないのか、妥当かどうか気になるということでございます。法人としては、右側に書いてございますが、6割。教員が71名、職員が48名ですから、119名のうちの69名というのは、私なんかは少ないんじゃないかと思うんだけど、多いとは言えないというコメントをつけたいと思いますが、●●委員、お願ひします。

○●●委員

私もこの69人で法人がaとつけたところを、どう考えればいいか気になっているところなんです。本当はbでもいいのかなとも思っています。

まずは、ハラスメント防止に向けた体制を整備して相談の体制を整えるというところで今回aと判断しているのかもしれないのですけれども、やはり参加率としては妥当な水準とは言えないので、その辺りをきちんとお伝えをした上での評価になるのかと判断いたしました。

○山沢委員長

ありがとうございます。

これはうがった見方をすれば、職員は全員は出られないから40人ぐらい出たとすると、教員は30人で半分を切りますね。すみません、大学はそういうところですから。そういうものもありますので、この辺はきちんと参加率を上げるようにというコメントをつけたいと思います。

○山浦委員

大学にはホットラインみたいなものはあるのですか。

○山沢委員長

それはさっきので、ないではありませんか。

○山浦委員

企業はホットラインはある。なおかつ弁護士までホットラインにつないでいます。弁護士に直接行く。

○山沢委員長

企業は普通ですね。

○山浦委員

ホットラインぐらいやったほうがいいのではないのでしょうか。いろいろと体育会系で事件が起きたりしていますね。セクハラとかね。

○山沢委員長

ホットラインのことも調べてください。お願いします。

○内山課長補佐

調べます。

○山沢委員長

他大学でも、今それが起きています。ホットラインというか、学生が駆け込んだので何とかわかったようなケースも生じています。

○生駒委員

それも運用なんですね。そういう制度を設けても、普通の企業は犯人探しになってしまうんですね。今はそんな時代遅れの会社は少なくなっていると思うけれども、訴えられている当事者に、おまえ、こういうことを言われているぞと言ってしまいうんですね。だから外部の弁護士にしろという話になってきてしまいうんですねけれども。

○山沢委員長

内部監査室がしっかりしていれば。受け取るところがね。

○山浦委員

パワハラとか何だとかいっぱいあるのだけれども、要するにどこへかけるかというのは、いっぱいないとかけられないんですね。日本人の場合は、告げ口するみたいな世界ですから。

○山沢委員長

それは、ぜひお願いします。

次は99、全員aということで、aとさせていただきます。本当は大切な問題なんですねけれども。

それから100、全員aということで、a。

101、これも全員aということで、aでございます。

これで一応41以降は終わりました。

前に戻ります。保留しているものがございます。資料7の3ページをお開きください。5が保留になっています。●●委員から御質問がございましたように、少人数クラスで20人～31人と言うが、31人は少人数クラスじゃないだろうということでした。

これに対しての回答がそこに書いてあります。クラス分けの方法は、1年生はCASECのオンラインテストを実施する。食健康学科とこども学科は、1年次は混合でCASECのオンラインテストの結果で3クラスに分ける（ばらつきの幅少ない）が、2年次は授業の都合で食で1クラス31名、こどもで2クラス40人を2で割って20人となって、そうすることで20人クラスが二つ、31人クラスが一つ。GM学科については、1年次はCASECの成績順で7クラスに分ける。7クラスというと240人ぐらいかな。

○内山課長補佐

グローバルマネジメント学部は170人です。

○山沢委員長

25人くらいということですか。2年次はTOEICの点数などを参考に、英語教員が進級時に7クラスに分けているということでしょうか。

●●委員、この回答でございますけれども、いかがでしょうか。

○●●委員

全体の評価としてはaを出して下さって構わないですけれども、やはりこれでいいのかどうかというところは気になるところでもあるので、私個人の評価としてはこのままbとさせていただければと思います。全体はaで全く問題ありません。

○山沢委員長

了解しました。今の御意見で、コメントのところにきちんと入れさせていただきます。

やっぱり30名は多いと思うんですね。普通ですね。この辺が技術系の駄目なところなんですね。15名ずつにしたらいんじゃないですか。英語力が上がるじゃないですか。

保留のところはa評価です。

次は5ページの11、追加質問で、フィンランド研修に参加した学生の満足度、取組度、これは先ほど●●委員からも出てきました。回答としては、3学科の中で最も専門的な活動を行うプログラムですし、非常に成果のあるプログラムだったと実感していると。これは教員ですね。この学科で海外研修を全員参加で取り入れている大学はほかにありませんということで、法人としては非常に満足しているということです。

●●委員、これでいいですか。

○●●委員

法人の回答としてはこれでいいんですけども、私が聞きたかったのは、学生が成果を感じたかということしっかり把握しているか、それでプログラムの改善を図ってほしいということなので、ぜひそのようにコメントとして、参考意見で入れておいていただければと思います。

○山沢委員長

学生の意見をちゃんと聞くようにというコメントをつけましょう。書いていないんですね。

○内山課長補佐

学生の意見は聞いています。アンケート結果は、またお示しします。今日はありませんけれども。

○山沢委員長

学生のアンケート結果は持っているようですから、お送りします。

次の6ページ、13でaの評価でございます。評価は問題ございません。追加質問が沼尾委員からございました。法人の回答がすごく長いので、事務方、これを説明してください。

○内山課長補佐

法人からの回答は、「よかった」と「まあまあよかった」を合わせて100%という結果で、総じて満足度は高かったということで理解しています、ということです。

グローバルマネジメント学部については、それぞれのプログラムによって、一概には申せませんが、来年度以降の改善点を洗い出しておりますため、学生アンケート調査を実施していきますということです。

英語の研修では、レベルの差がありまして、戸惑う学生がいたということのほか、日本での授業に似ていて物足りなさを感じたというようなこと、現地の学生と交流を望む意見もあったと伺っております。

現地のビジネス研修も別にやっております、日本で実際の議会や同種の企業について学ぶ事前の研修の重要性を認識したというような意見が見られたということでございます。

その他教員への聞き取りということにつきましては、海外での授業を見学し、勉強になったという意見もありますし、教員自身の成長にも一定の効果があったということです。

食健康学科につきましては、こども学科と同様に研修全体のアンケート結果として、「とてもよかった」「よかった」ということを合わせて100%という結果で、こちらも総じて満足度は高いということでございます。

以上です。

○山沢委員長

このアンケート結果は我々には公表できるのでしょうか。これはないのですか。

○内山課長補佐

確認します。

○山沢委員長

確認しまして、アンケート結果を委員が見られるということであれば公開したいと思えます。この文章ではよく分からないので、学生の意見だから、我々に出してもいいのではないかとありますが、聞いてください。ありがとうございます。

次は14で、私が言うまでもなく答えになっていないのですが、●●委員が62冊でそれはどうなのかということを知っているのですけれども、全部渡航先についての資料なんですか。10万冊の蔵書というのは何でしょうか。「すべて新規購入。図書館に開架しているので全学生が手に取ってレポートを」、これは何を言っているのかよく分かりません。

要するに、62冊のほかにまだ10万冊あるのでしょうか。

○内山課長補佐

それは図書館全体の蔵書数を言っているのので、答えになっていないと思います。

○山沢委員長

●●委員、すみません。よく分からないのですけれども。もう一度確認します。評価は a ということでございます。

先を急がせていただきます。15です。これは(a)になっていますが、たしかaと決めたと思いますので、直してください。

○内山課長補佐

そうです。

○山沢委員長

括弧なしの a です。

9ページの18、これは保留でございます。●●委員がまだここでの御意見をいただけないということでございます。●●委員の評価を見て、全体の評価とさせていただきます。

○内山課長補佐

今日の資料8の最後のほうになりますけれども、学年別の TOEIC の点数分布をつけさせていただきます。500点以下の方が入学時は多いのですが、2年次修了時には600点台、700点台ぐらいまで行っている方もいることにはなっております。

一般的に留学するというときには、TOEIC550点以上とかを設けている大学もありますけれども、一定程度向上している部分はあるかと思えます。

○山沢委員長

なかなか難しいですね。

●●委員、いかがでしょうか。

法人も c でございますが、私が(評価案を) c にした理由は、結局学生の英語力がないからじゃないかとなってしまいうんですね。でも、そこを指導するのが大学なので、学生の能力だけに絞っていくような年度計画は良くないのではないかとということで、学生をかばってやろうかと思って(私の評価は) b にしたのですが、c の評価で結構でございます。

○●●委員

私も c にしてください。法人の計画達成の具体策をお聞きしたいと。未達が2年続いているので。

○山沢委員長

そういうことで、c という評価にさせていただきます。

●●委員、よろしゅうございますか。

○●●委員

●●委員に教えていただければと思うのですが、県立大学が想定している学生のレベルというのがあるかと思うのですが、そのときの入学時の TOEIC の状況というのは、大体県立高校の想定範囲というか、学生の一般的な範囲と考えてよろしいのでしょうか。それとも、想定よりも少し点数が低かったとか、高かったとか、感触をお教えいただければ。

○沼尾委員

中期計画で想定した当初の学生のレベルということですか。

○●●委員

はい。

○沼尾委員

平均的かなと思っています。これは結局大学が設定している TOEIC の目標値が高いので、そちらの問題かなと思っています。

○山沢委員長

私も大学教員ですが、今の●●委員と全く同じ考え方で、●●大学の学生はもうちょっと低いかないという、まあこんな感じです。これを見ていたら、この目標ではないんじゃないかと。いろいろ難しい問題はあるのですが、ここは、学長がこの目標は変えないとおっしゃっていましたので、4年間で頑張ってもらおうということで、期待しているところです。

○●●委員

これを拝見していて思ったのは、まず学生の入学レベルでこれが一般的であるという、高校教育の英語教育の問題も課題もある程度考えていく必要があるのかもしれないなと思いました。

そういう意味で、県立大学の目標を今 600 点以上と掲げているならば、長野県内の英語教員との連携とか、高校教育から英語教育について県立大学が関わっていただくというような、目標の長期的な視野での修正も、地域連携として御考慮いただければとは感じました。

○山沢委員長

レベルの高い話ですね。

○●●委員

今の話を踏まえて、私はcの評価で結構です。

○山沢委員長

ありがとうございます。

それでは、これはcということです。

次は11ページ、21でございます。bかaかとありますが、私は、昨年度と比較して、いろいろな広報活動をしているのですが、数が減っているということを非常に問題にしております。私の経験では、あまり理屈なく、ともかく高校の先生に一生懸命お話しして、本学へ来てくださいというのを言うしか方法はないのではないかと考えているということで、教員の努力が足りないとしてbとしているところでございます。

●●委員、ここは。

○●●委員

これは同意見です。

○山沢委員長

皆さんはaということですが、譲ってaでもよろしゅうございますので、全体の評価としてはaということで、コメントとしては今のことを言っていきたいと思います。

あと●●委員が減少したことを問題視されているのですが、この回答は。

○内山課長補佐

これは前回の議事録です。

○山沢委員長

これは問題があるというところですね。回答はいただいているのでしたね。

失礼しました。21のコメント欄に長く書いてございますのは、前回の議事録から●●委員の発言を繰り返させていただいているところでございます。こういう問題があるのだということです。

コメントをつけてaということで、私はよろしゅうございますけれども、●●委員。

○●●委員

結構でございます。

○山沢委員長

では、コメントつきでaということで。コメントはしっかりしたものを、今の御意見を聞いてこれから考えたいと思います。ありがとうございます。

次は15ページの29、大学院の設置ですね。これについては、7月20日に会議をした後ホームページにきちんと載りまして、そのことについて、課長から簡単に御説明ください。

○村上高等教育振興課長

大学院は公立大学法人長野県立大学の中期計画に基づきまして、昨年度大学内で検討会議を開いて、大学院の設置構想を大学の案としてまとめました。

大学院の設置となりますと設立団体や県の施策とも関連してきますので、今年度、県と大学が一緒になって、この設置について検討を深めていきたいとそうように考えております。

以上です。

○山沢委員長

ただいまのお話は、県立大学のホームページに長野県立大学大学院設置の基本構想のようなものが載っております。アクセスして見るができるようになっていたのだそうでございます。そういうことで、着々と進めているということを法人側は言いたいということでございます。

そういうことで、評価はaにしてございますので、よろしいかと思えますけれども、この時点では基本構想を決定したと言っているのだけれども、それは何かという感じで疑問を持っていたのですけれども、一応ホームページで、概要でございますが、公開したということでaという評価でよろしゅうございますか。

それから31、授業改善アンケートでございます。●●委員と●●委員はbの評価でございますけれども、右端のコメント欄に書いてございますように、学生アンケートの報告書を見なければよく分からないのではないかとということでございます。

本日、閲覧要求した、この授業改善アンケートの報告書を預かりまして、見ることができました。私の見るところ、先生の評価もきちんと書いてあります。

ただ、これはアンケートとしてはやっているのですけれども、これがどのように使われているかというところは、まだなっていないと。1冊の本として、このようにきちんとなっているということでございます。

アンケートをちらっと眺めたところ学生からのストレートな回答があり、なかなか楽しいものがあるのですけれども。今、見ていただいておりますが、お二人の委員が指摘されているように、授業アンケートであって、このアンケートを見た教員は改善の方向をそれなりに考えていくわけでしょうけれども、大学全体として、このアンケートからこういうことが言えて、こういう方向を注意していこうとはまだなっていない。そういう意味では、この年度計画は、まずアンケートを取ったということだけということですかね。

○●●委員

総評にとどまっているんですね。

○山沢委員長

それだけなんですね。

○●●委員

担当教官に渡したとか、閲覧に供したとか、不十分ですね。

○山沢委員長

難しいですね。

●●委員は実際この中身を見ていないので、どうしますかと言うのも難しいと思いますが、●●委員、見てどうですか。

○●●委員

bの理由は、結構立派にできていると思ったけれども、中期目標には授業評価と書いてあるのだけれども、それと授業改善アンケートは、言葉の上では全然違うのではないかと、変な言い方をすれば、どうもすり替えたのではないかと考えているのですが。

これは授業評価で評価なんだから、さっきの教員の評価というのがあって、あれとこれを合わせて、総合で教員評価をするべきだと。そこまで行っていないからbだと。

○山沢委員長

よく分かりました。bということですね。

○●●委員

別にaでもいいですよ。

○山沢委員長

いや、私もそれを見てbかなと思ったりしています。

○●●委員

私がbにすればbですね。bで結構ですよ。

○●●委員

委員長にお任せします。

○山沢委員長

2年目でしたから、アンケートを取って1冊の本として教職員が共有できたというところは評価してやりたいということで、aでいかがでしょうか。bの評価も残して、個別はこうだけれども、全体としてはaだということでよろしゅうございますか。コメントにはしっかり書きたいと思います。

○●●委員

私はbに直してください。

○山沢委員長

修正されますか。だいたい、●●委員からbということで、そうなりと、●●委員どうですか。内容を見ていないけれども。

○●●委員

現物を拝見していないので、先程の●●委員のおっしゃるとおり、授業評価の導入と授業改善アンケートという意味づけは、確かに今後の改善のポイントかと思いますが、開学2年目で、段階的にここへ向けて取組をしていくという形の中で、まず改善アンケートを実施して、そういう形の報告書としてまとめたというところで、私は段階的な目標へのプロセスの一つとしてaという形で評価をさせていただいたつもりです。

○山沢委員長

ありがとうございます。

○●●委員

aにしてもいいですが、結構立派なアンケートですが、中身を分析してあればともかく。

○山沢委員長

してないですからね。この年度計画の文章の後半の部分は何もやってないんですね。「その結果をシラバスに反映するなど授業の改善につなげるよう取り組む」という、その取組は全くやっていないということですね。

では、すみません、私もbとします。●●委員すみません。それで、コメントとして、前半でアンケートはきちんととってまとめて公表して、教職員で共有したことは良い。しかし、後半はこれから期待したいというコメントでよろしゅうございますか。

○●●委員

はい、結構です。

○山沢委員長

すみません、ありがとうございます。

では、これは評価bでございます。

次は37、法人はsとしているけれども、みんなaなので、これは評価はaです。その理由を書いているのですが、法人は回答してきていますので、事務方お願いします。

○内山課長補佐

学生側の参加意欲が、学生が自主的に参加していると。それだけで、あまり答えになっていません。

○山沢委員長

あまり答えになっていない。すみません、いろいろ言っているのだけれども、これはaで行きましょう。

最後の保留は22ページの41、発信力ゼミについて、私と●●委員はaの評価で、あとは皆さんsということで、評価(案)としてはsだけれども、時間も迫っていたので、何となくsかと言っていました。

●●委員から、「インターンシップというように、学生のキャリア形成に必要なチャンスをいろいろな場面で入れていますと書かれているように思うんですが、その関係性がよく分からない」ということです。

この回答は。

○内山課長補佐

その下に書いてあります。食健康学科とこども学科については実習等で忙しかったので、学生からのインターンシップの応募がなかったということなんですけれども、グローバルマネジメント学部の学生のインターンシップは、まだ3年生がいなくて、昨年度はまだ1年生、2年生だけでしたが、参加率は43.5%ということで非常に高い、信州大学より高いというデータはいただいております。

通常ですと3年生が行かれるケースが多いと思いますが、県立大学の場合は、1、2年生の段階から積極的にインターンシップに行ったり、少数ですけれども、海外インターンシップに行った学生もいますので、積極的にインターンシップはされていると、こちらのほうでは把握しております。

○山沢委員長

そういうことございまして、●●委員の意見はこの後で伺いますけれども、私としては、200名ガイダンスに来ていて74名しか出ていないから少ないのではないかと言ったら、何を言っているかと、他大学より割合からすると高いと言われてしまいました。

1、2年生からインターンシップの話をちゃんとして、そういう機会も与えているということでは、sの評価も悪くはないかと考えるようにいたしました。

●●委員、御質問の意味は違いますか。インターンシップの実施報告をやっているけれども、効果やその辺をちゃんと整理しているのかという御質問ですね。

●●委員、いかがでしょうか。aという評価でございましてけれども。

○●●委員

ありがとうございます。

県立大学の場合は、学科ごとにキャリア形成支援へのお取組が異なるということは2年間で拝見しているのですが、全体的な卒業後のキャリア形成に向けての取組と体系が、まだ十分整理されていないのではないかという印象があります。どのようなキャリア支援計画に基づいて、1、2年生での学長の面談の位置づけや発信力ゼミ、それからインターンシップのガイダンス、インターンシップの経験、そして成果報告会と、3年になったらどうするかというところが、通常は自己理解をして、それから業種研究だとか、他者理解と、そして啓発的体験というのは系統だっ行っていくことが多いのですが、この辺りは、こういうことをやってみてもいいのではないかというみたいなの、少し思いつきの取組にも見えてしまいます。

キャリア支援について、やはり計画の整理はしていただいたほうが良いと思いますので、sとは言えないと思っております。全体の整理がついていないように見えるので。

○山沢委員長

ありがとうございます。

今のは非常に重要な御意見だと思います。計画というか、目標としてキャリアの形成や就職活動の支援を、4年間を通してきちんと実施して、就職率100%を目指すというのが目標なわけですから、そういう点から考えると、あちこちで適宜今できる状態でインターンシップをやらせたりというのはそれはそれでいいんだけど、ちゃんとした目標に沿った形でこれはこうという整理ができていないのではないかという御意見でございます。非常に重要な意見だと思いますので、そこはぜひ、コメントにするとか、それこそ別の形で書いてもよろしいかと思いますが、そういうことを入れて、一応sでよろしゅうございますか。

●●委員、よろしいですか。

○●●委員

私はaで、多分sとは言えないと思います。

○山沢委員長

●●委員の評価はaで、全体としてsということによろしゅうございますか。

○●●委員

はい。

○山沢委員長

ありがとうございます。

では、これはsということです。

戻りまして、今日評価した44ページの91を御覧ください。健康診断の話です。●●委員から、産業医のストレスチェックをちゃんと受けているのかということ、受けていないのだとしたら、aではなくてbだということでもございました。

大学に確認したところ、教職員は、ストレスチェックを受けているそうです。ということで、教職員の健康診断は正規の決められた形で実施されているということでもございます。

ただ、たしか学生はこれはないんですね。その辺どうなるかは次の問題ですが、少なくとも教職員の健康診断については、産業医のストレスチェックを受けているというところでもございます。

そういうことで●●委員、bはbとしても、全体の評価としてaということによろしゅうございますか。

○●●委員

かしこまりました。産業医が設置されているということですね。

○内山課長補佐

そうです。

○●●委員

安全衛生委員会も定期的に行われているということによろしいですか。

○内山課長補佐

はい。

○●●委員

「心とからだの健康づくり」の計画、安全衛生法上の計画を立ててあるということによろしいですね。

○内山課長補佐

やっているはずなのでそう思っていますが、確認いたします。

○●●委員

私の評価はbのまま、(全体評価は) a で結構です。

○山沢委員長

ありがとうございます。

一応一回りしました。ありがとうございます。

もう少し時間を下さい。大項目について議論したいと思います。資料10を御覧ください。一覧表が載っています。事前を書いてあることから、本日の評価を反映させた形で全体を評価しないといけませんので、それを見ます。

(2) 入学者の受入れが、前はaが6とbが0で、その後書き直して5と1となっていますが、これは元に戻して6と0です。aの5とbの1を削って、aが6ということになります。

(3) 教育の質の向上が、aが6、bが1になっていますが、小項目31がbになりましたので、aが5、bが1から2に増えます。

大項目評価そのものは変わらず、(1) 人材の育成の方向がB、(2) 入学者の受入れがA、(3) 教育の質の向上がA、(4) 学生への支援がA。5の研究がB、6の地域貢献がS、7の国際交流から11のその他の業務までAということで、ここは変わりません。これは小項目の御判定いただいた結果を集めたというところになります。よろしゅうございますか。資料10で項目別評価は集計ではこうなって、大項目評価はこの資料のとおりになります。

そうなりますと、上から2番目、「中期計画の進捗は順調」という全体評価ということになるわけになります。よろしゅうございますね。

ただいまの協議事項を少しまとめさせていただきます。前回と同様限られた時間で検討を行っておりますので、各小項目のコメントがいろいろございましたけれども、御記入いただいたコメントや今日の議論を踏まえたコメント等を、私と事務局で整理したいと思います。

その整理結果を8月5日までに、事務局から委員の皆様へお送りいたします。誠に申し

訳ないんですが、2日後の8月7日ぐらいまでに御意見を頂戴したいと考えておるのですが、いかがでございましょうか。実はその後のスケジュールが詰まっております、今日は7月30日ですから、8月1日、2日ぐらいでまとめて、その後8月5日までに皆さんにお送りしたいと思っております。誠に申し訳ございませんけれども、2日間ぐらいで読んでいただいて御意見をいただくということにしたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

今後のスケジュールとしましては、本日の評価結果を法人に伝える、評価書の原案に対する意見の申し出の機会を付与するということが必要でございまして。本年度は法人との事前協議の中で、昨年度のように評価結果の原案に対する意見の申し出に対する評価委員会からの意見の返しは行いません。意見の申し出を受け止めまして、評価を変更することについての検討の必要があるわけですが、それは返しはしないということでございます。

今年度は、評価結果報告書の原案の提示をメールで行いまして、評価書(案)は、評価結果報告書と評価結果報告書参考資料、参考意見書の確認の三つを同時に9月1日に御検討いただきたいと思っております。そのときに、法人からの意見の返しの確認も行いたいと思っております。

何か御質問がございましたらどうぞ。まずは、今日いただきました御議論を踏まえて、コメント欄を私と事務局で整理して、皆さんに5日までにお送りしますので、2日後の7日に御返却をいただきたいということ。

皆さんから御返事をいただいたらすぐ作業にかかって、法人には原案を送るということでございます。ただし、法人に対して意見の申し出に対する評価委員会等の意見の返しはしない。申し出はそのまま受け取るということでございます。そこが昨年と違うところでございます。

皆様には、評価結果の原案の提示をメールで行いたいと思っております。評価書(案)をお送りするわけですが、中身は評価結果報告書、厚い全体の報告書です。それから参考資料と言われている各項目の報告書、それから参考意見書です。この辺を私と事務局でつくり上げて、皆さんにも適宜御相談しながらつくり上げたものを、9月1日に御検討いただく。御検討いただく資料は前もってメールでお送りします。こういうことでございます。よろしくございますでしょうか。

○山浦委員

8月の初めに回答するものは、どんなものが来るんですか。

○内山課長補佐

8月5日までに、本日の議論を踏まえて、先ほど山浦委員もおっしゃっていた最終的な報告書の本体を、委員長と相談しながら作ります。

○山浦委員

それは9月と。

○山沢委員長

それは最終。9月は大学に1回示したもので議論をします。

○山浦委員

分かりました。でも、そこに出す形のものがもう来るんですね。

○生駒委員

今日の議論を踏まえて。

○内山課長補佐

大学が夏季休暇期間に入る前の8月7日までには送らないと間に合わないものですから、忙しいんですけども。コメントにつきましては、また委員の皆様にご確認をお願いしたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

○山沢委員長

資料7のコメント欄を充実したものを、まずは。

○内山課長補佐

それを作ってサマリー版を作ると。

○山沢委員長

本物の報告書の原案みたいなものができれば、8月5日までにできるかな。できなければ、コメント集はお送りする。

○村上課長

まずはコメントを伺いたいと思いますので、コメントを固めて本体を作ります。

○山沢委員長

すみません、よろしくお願いします。

○沼尾委員

すみません、よろしいですか。聞き取りにくかったので確認ですが、8月5日に来たものを7日返すということは分かったのですが、あとのやりとりで、もう一回委員会があるということになるんですか。

○山沢委員長

こういうことでございます。例えば、資料7で今日見いただいています一番右端にコメントがあります。この文をちゃんと完成させて、今日の意見も入れてコメントを書く。それを皆さんにお送りするのが8月5日で、それに対する御意見をいただくのが7日。

その後、私どもとしては報告書、項目別の参考資料、評価結果報告書が二つあって、一

つは本体、もう一つは参考資料ということで項目別が入っています。これと参考意見書と
いうのをつくって、それを8月18日前には大学にお送りして、法人のほうで、それで文句
があるだろうから意見をいろいろ言わせると。

前のように、その意見に対して委員会としてはこう考えますということと言わない。法
人が言ってきたこと等を見ながら、9月1日の委員会に出すための評価書と参考意見書
をつくり上げて、1日には皆様と一緒に御議論して御確認をいただくということです。

○沼尾委員

9月1日の委員会の日程ですが、この日は、私は出席できなくて申し訳ありません。

○山沢委員長

わかりました。日程は再調整させていただきます。すぐにこれはやりますので。

○山浦委員

法人全体に申し上げたいことは何も聴取していないんだけど、それはもらったとき
に書けばいいのですね。

○生駒委員

もう整理されるとおっしゃっているから。

○山浦委員

全然この評価と関係ないことと言いたいことが一つだけあるんだけど。それは、ソ
ーシャル・イノベーションとか、社会貢献とかということをやり過ぎではないかと言われ
るんです。それは世の中の評価はそうなっているけれども、大学本来のことを忘れてい
るのではないかとと言われるんですね。

要は、グローバルマネジメント学部は経済学だけれども、経済原論みたいなことを全然
知らないではないかと言っている人がいるんです。勉強していないと。やはり世の中に出
ると原論、原理を知らない人は一番困るんです。簡単に言えば、算数の足し算ができない
人が今いっぱいいるわけです。

そこら辺、ソーシャル・イノベーションをやり過ぎているんじゃないかと思うのですね。
その辺のことを懸念しております。

○生駒委員

山浦委員に案文を作成していただいて。

○山浦委員

後でお送りします。

○山沢委員長

私は言いたいことはよく分かります。

○生駒委員

日程調整をしたほうがよろしくないですか。

○内山課長補佐

沼尾委員、9月1日は御都合が悪いということですので、その周辺で御都合のつく日はございますか。

○沼尾委員

この週は1日以外でしたら、今のところは大丈夫です。

○内山課長補佐

ほかの委員の皆様はいかがでしょう。

3回目はまとめになりますので、そんなに長時間ではないとは思われます。

では、2日の午前中ということで。

○山沢委員長

2日の午前中だそうです。よろしゅうございますか。

○内山課長補佐

承知いたしました。

では、9月2日の午前中ということでお願いいたします。

○山沢委員長

電波のいいところを取りましょう。

山浦委員、先程の話は非常に重要で、私も前々から思っているんです。

やはり学問の本質をそこで誰がきちんと教えていくか、そういう教員もいなくては困る。県立大のイメージとして、やはり、経済なら経済、社会科学の本質をきちんと学ばせて、それを教え、教授している人物もいるんだというのはイメージとしても出さなければいけないと思います。

大学院構想が出ているのですが、そういう中で、今のイメージを高めるような大学院構想も一つあるかと思います。

これはどこで話をするのでしょうか。評価は評価だから。やはり設置者がそういう問題意識をお持ちになると、中期目標・中期計画の検討のところに出てきて、やらなければいけないと大学は思うんでしょうけれども。

第1期6年間は、途中で今言ったような目標を変えてしまうといけませんね。でも今から言っておかないと、第2期もこのまま行ってしまうと駄目になってしまうし。

○増田県民文化部長

また、どういう場所かというのは。ただ、大学を設置するときには、基本的には専門性は大事だと。専門性をきちんと究めた上での大学だということで、基本的な専門性はきっちりやるという上でのカリキュラムであるはずなのですが、おっしゃるように、外へ出る見え方と実態があるので、確認したいと思います。

○山沢委員長

ありがとうございます。

では、次回は9月2日水曜日の9時半からです。よろしくをお願いします。

3 その他

○山沢委員長

その他事務局からありましたらお願いいたします。

○村上課長

スケジュール以外は特にはないです。

4 閉 会

○山沢委員長

また私の不手際で遅れて申し訳ございません。本当は残っているものがあるんですが、それは私も考えて、皆さんにメールでお聞きしようと思っています。よろしくをお願いします。御苦勞様でした。

(了)